

TERRA APPEAL (テラ・アピール)

以下の文章は、第10回総会の「記念シンポジウム」において採択され、平成4年5月の国連会議のNGO会議に提出した資料です。

環境と開発に関する国連会議 (UNCED)へのTERRAアピール

「人間のもつべき文明」

***** 暮らし 環境と開発 そして 霊性 *****

【序文】

地球市民の会では、この9年間にわたり、国際交流、地域作り、国際協力を実践する中から、国内外に於いて、低開発と過剰開発のもたらす諸問題—公害、農薬、食品添加物、ごみ、貧困、対外債務、人口爆発、海洋汚染、酸性雨、地球の温暖化、砂漠化、有害廃棄物の越境移動、オゾン層の破壊、熱帯林の減少、野生生物種の減少—と遭遇し、途上国の低開発の問題と先進国の過剰開発、そして、この20年来注目の的となった地球環境の問題は断絶ではなく「連続」であり、開発（発展、進歩【development】）、即ち、人間至上主義、経済最優先の「文明」の中にこそその根本原因があることを知りました。

そんな中、この4月29日、国連人口基金は1992年の世界人口白書を発行し、急増する世界人口が2050年には、100億人を突破し、21世紀末には200億人まで達する可能性まで示唆し、今後10年間の取り組みが、人類の将来を決定すると強調しています。人類は果たして、文明を維持し、かつ、自らを支え続けることが可能なのでしょうか。

人類が、そして私たちの子供たちが、明日も太陽の恵みを受け、この世に生を受けたことを全てに感謝することができるためには、私たちは、今、頭を冷やしてのぼせを下げ、驕りを捨てて価値観の転換を図り、ライフスタイル、そして文明の方向そのものを変えていくことが絶対条件なのです。

地球環境問題に象徴される様々な緊急課題は、そう遠くはない将来、人類に破壊的な影響を及ぼすと言う認識の元、平成4年（1992）年5月17日、私達13名は、日本国佐賀市に集い、時間と空間を越えて、発展（開発）概念、そして人類の文明そのものを再検討し、我々が採るべき文明の方向と、具体的な実践方法を探り、以下5項目の『TERRAアピール』を採択しました。

私達の町、国、そして地球上のすべての人々が自己の霊性を自覚し、大いなる「いのち」の中に調和して、万物が末永く繁栄し続けることを祈念し、「人間のもつべき文明」としてのこの『TERRAアピール』を佐賀発リオデジャネイロ経由、全人類へのメッセージと致します。

【本文】

1. 進歩・発展・開発について

科学や経済の発展には、宗教、哲学、道徳の裏付けがなければならない。経済や科学最優先の「開発と環境の保全（持続的開発）」は、本来自己矛盾である。我々は、価値観を根本的に転換し、進歩、発展の尺度を精神的なものへと昇華させて行かなければならない。

2. 地球について

言うまでもなく、人間は地球上の生命の1種に過ぎない。そして、地球は全ての生命の共有財産である。我々は、人間中心主義の驕りを捨て、すべての生命と共生しなければならない。

3. 人間と生命について

固体の命は固体のものだけにあらず、宇宙生命体の一環である。我々は、この世全ての存在はぶっ続きであることを理解しなければならない。

4. 地球環境と精神（霊性）について

現在の環境破壊は正に目を覆わんばかりであるが、地球環境より遥かに危機的状況にあるのは、文明の発達の中で、自然、宇宙とのつながりを忘れた我々人間そのものであり、その根っこである精神（霊性）であることを十分に自覚しなければならない。

5. 文明について

人間は本来無一物。我々は、本然（本来の自然：素朴、寡）に戻らなければならない。本然の文明、すなわち、地球の平和であり、我々の幸福である。

平成4年（1992年）5月17日

- *吉田 東州 (経世家/雑誌「のぞみ」主宰)
- *アレグリーニ・アレグリーニ (佐賀カトリック教会助任神父・ロザリオの園チャブレン)
- *ジャロン・メキンランクラ (ドゥアンプラティープ財団専務理事)
- *林 達夫 (日本国際ボランティアセンター事務局長)
- *きくち ゆみ (環境活動家/エコロジースペースJEAN)
- *佐藤 昭二 (自然農法・土壌浄化法/地水社社長)
- *小原 嘉文 (日本青年会議所副会頭・地球市民の会会長)
- *ビヤダーサ・ラクナヤカ (佐賀大学経済学部助教授：発展途上国経済学)
- *豊島 耕一 (佐賀大学教養部教授)
- *甲本 洋子 (コープさが生活協同組合副理事長)
- *ジュリア・ワッフル (アースデイ佐賀92代表・佐賀県国際交流員)
- *栗山 久生 (佐賀県国際交流室長)
- *古賀 武夫 (地球市民の会副会長)

浜玉宣言

以下の文章は、昭和62（1987）年7月26日、佐賀県東松浦郡浜玉町浜崎の浜玉町中央公民館において開催しました、「第2回小さな地球計画」（17カ国63名の留学生が参加）のイベントの一つ、『第1回地球会議』で採択したものです。

——— 浜玉宣言 ———

- 一、やっぱ人間な誰（だり）でん一緒じゃった。
- 一、欧米だけにとらわれず、地球上のすべての人々を公平に見る目を持つよう努力する。
- 一、私達は、アジアの一員としてアジアの仲間との友情と協力関係を築き上げるよう努力する。
- 一、モノ、カネも大事だが、人と人とのココロの交流の大切さを再確認する。
- 一、自然との調和を目指し、地元の独自性を自覚し、堂々たる田舎人として大地に根ざした生活を営むよう努力する。
- 一、これらの自信と誇りをもって、私達の住む町やムラの本当の発展と開発に尽力する。
- 一、以上の項目の実現のため、より多くの対話の場所として、『地球会議』を継続して行う。